

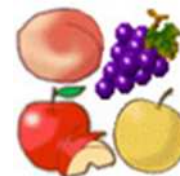


# 令和6年度 果樹情報 第19号

(令和7年3月12日)

果樹の発芽予測

福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況 (3月上旬、果樹研究所)

平均気温は、1半旬が4.4℃で平年より0.8℃高く、2半旬が3.9℃で平年より0.4℃高く経過しました。

この期間の降水量は、26.0 mmで平年比 121%でした。日照時間は、69.0 時間で平年比 105%でした。

## 2 発芽状況 (3月11日現在、果樹研究所)

発芽は、もも、なし、りんごの各品目とも、まだ確認されていません。

## 3 発育予測

仙台管区気象台が3月6日に発表した1か月予報(3月8日～4月7日)では、今後の気温は平年より高く推移すると見込まれます。

直近の2週間気温予報では、期間の前半は平年に比べて高く、発芽直前となる後半は福島では高く、会津では平年並に推移する見込みです。

### ●東北地方1か月予報(仙台管区気象台 令和7年3月6日発表)

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目(3/8～3/14)は、高い確率80%です。

2週目(3/15～3/21)は、高い確率50%です。

3～4週目(3/22～4/4)は、高い確率50%です。

### ●2週間気温予報(令和7年3月11日17時発表)



(1) 果樹研究所（3月11日現在）

果樹研究所（福島市飯坂町）における果樹の発芽は、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合、もも「あかつき」が3月26日ごろで平年並より2日遅く、なし「幸水」が4月1日ごろで平年並、りんご「ふじ」が3月27日ごろで平年並と予測されます（表1）。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右されるため注意が必要です。

表1 発芽予測日 [予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測]（果樹研究所）

	発芽日		今後の気温経過			
	昨年	平年	気象予報	2℃高い	平年並	2℃低い
あかつき	3月25日	3月24日	<b>3月27日</b>	<b>3月26日</b>	3月28日	3月31日
幸水	3月31日	4月1日	<b>4月3日</b>	<b>4月1日</b>	4月5日	4月9日
ふじ	3月28日	3月27日	<b>3月27日</b>	<b>3月27日</b>	3月29日	4月1日

注1) 発芽日の平年値は、1991～2020年の平均

注2) 気象予報とは、気象庁が発表する週間予報、2週間気温予報及び1か月予報気温（3～4週目）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値

注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合があります

(2) 会津地域研究所（3月10日現在）

会津地域研究所（会津坂下町）における果樹の発芽は、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合、りんご「ふじ」が4月2日ごろで平年より1日遅く、かき「会津身不知」が4月16日ごろで平年より2日遅いと予測されます（表2）。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右されるため注意が必要です。

表2 発芽予測日 [予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測]（会津地域研究所）

	発芽日		今後の気温経過			
	昨年	平年	気象予報	2℃高い	平年並	2℃低い
ふじ	3月31日	4月1日	<b>4月4日</b>	<b>4月2日</b>	4月5日	4月8日
会津身不知	4月7日	4月14日	<b>4月19日</b>	<b>4月16日</b>	4月19日	4月23日

注1) 発芽日の平年値は、1991～2020年の平均

注2) 気象予報とは、気象庁が発表する週間予報、2週間気温予報及び1か月予報気温（3～4週目）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値

注3) 会津身不知では3月が極端な高温で推移した場合に、予測誤差が大きくなる傾向があります

### 3 栽培上の留意点

(1) 管理作業の計画的な実施

この時期の管理は、せん定、せん定枝処理、誘引及び休眠期防除等が中心となります。発芽予測日や今後の気象予報等を考慮し、管理作業が遅れないように注意しましょう。

(2) ももの摘らい

摘らい作業の適期は、3月上旬から発芽直前までであり、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を傷めやすい上に、花らいが離脱しにくくなり、能率が極端に低下します。

摘らい作業は時間を要するので計画的に実施しましょう。

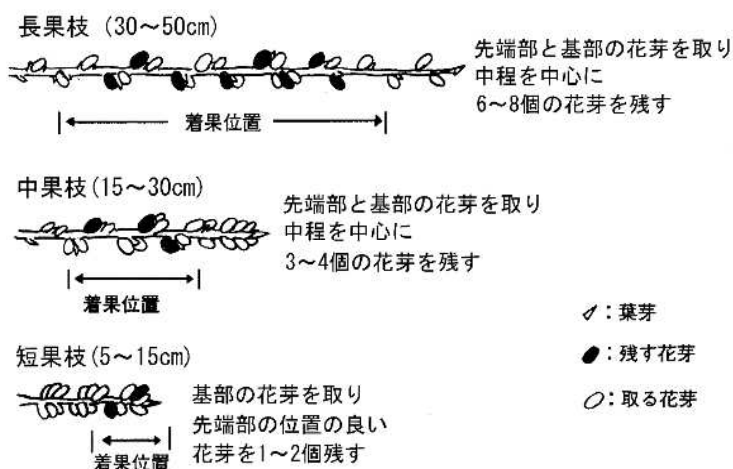


図1 ももの摘らい方法

#### 4 病害虫防除上の留意点

発芽前の防除の準備（機械の点検、薬剤の確認、防除用水の確保）を行いましょう！

本年の発芽日は、概ね平年並の見込みです。

発芽前の防除は、時期が遅れないように注意し、週間天気予報を確認しながら、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

##### (1) 全体

カイガラムシ類の発生が増加しています。発生が多い園地では、ワイヤーブラシなどで越冬部位をよくこすり落としましょう。発芽前のマシン油乳剤の使用が効果的ですので、必ず実施しましょう。

近年は春期の極端な高温により、病害の孢子飛散時期や感染時期、害虫の発生時期が早期化する事例が確認されていますので、昨年病害虫の発生が多かった園地では、越冬状況や活動状況をよく観察しましょう。

##### (2) りんご

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期の防除を徹底するとともに、発病部は削り取るかせん除しましょう。

輪紋病の発生が多い園地等で枝幹にいぼ病斑が見られる場合は、病患部を削り取りましょう。

うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度低下を図りましょう。

ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多い園地では、発芽1週間前までに機械油乳剤95を25倍または発芽直前にハーベストオイルを50倍で使用しましょう。

##### (3) もも

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）に防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル500倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

##### (4) ネクタリン

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）に防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル500倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

##### (5) なし

黒星病及びハダニ類に対して、発芽10日前までに石灰硫黄合剤10倍を散布しましょう。特に、前年にニセナシサビダニ等の越冬病害虫が多発した園地では散布が必要です。

また、黒星病の枝病斑は伝染源にはなりません。枝病斑が見られる枝では芽基部感染の可能性があるため、枝病斑の有無を十分に確認しながらせん除しましょう。

黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、せん定時に取り除きましょう。

ハダニ類やカイガラムシ類の発生が多い場合は、発芽10日前までの石灰硫黄合剤に替えて機械油乳剤95又はハーベストオイルを使用し防除を行いますが、樹勢が低下した樹には使用しないよう注意しましょう。

##### (6) ぶどう

晩腐病や黒とう病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

また、晩腐病に対しては、休眠期の防除を徹底しましょう。

前年にハダニ類の発生が多かった園地では、休眠期に防除を実施しましょう。

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>